

# 2024年度事業計画書

デザインは産業創出のための中心的なテーマであり、私たちは新産業を創出するイノベーション視点でデザインを発信することが重要だと考える。また、未来に向けたデザインの役割を正しく社会に伝える活動として、安全、サステナビリティ、気候変動など産業デザインにとって重要なテーマに取り組み、社会実装に繋げることを目指す。24年度は特に、デザインコミュニティのハブとなる活動を活性化し、デザイン業界の横連携、周辺領域を繋ぐ役割を果たし、デザイン全体の影響力を高める活動を推進する。

内部的には業務効率化のため、DXの継続的推進と有効なシステムの導入を積極的に進める。

## 1、資格付与事業 《信頼される職能の確立》

インダストリアルデザイン関連の人材育成のため知識の一定化を目指し、知識レベルを第三者からも評価されるよう検定を実施し、資格を付与する事業を2010年から行なっている。

デザインの社会的役割の変化・拡大により、求められるデザイン能力、またその能力を必要とする職種も日々拡大している。それらの社会的ニーズに応えるためにJIDAの主たる一事業として取り組んできた「プロダクトデザイン検定」を、2024年4月1日より対象領域を広げる目的で「JIDAデザイン検定」と名称変更し新たにスタートすることが決定した。24年度も事業自体は従来通り粛々と継続していくが、目に触れる名称変更の部分を一年間かけて改変する計画とする。

### (1) デザイン検定事業

「JIDAデザイン検定」へのリニューアルに際し、位置付けの見直しから証明書のデザイン変更まで様々な変更が発生するが、齟齬・トラブルなく、事業を継続しながらスムーズに移行させることが2024年度の最も重要な活動として位置づけている。

またリニューアルを通じて、広報委員会など、他の事業、委員会と連携することによりシナジーを高め、日本のデザイン力の向上に貢献したいと考える。さらに多くの人々に必要とされる検定になることで、受験者数と層の拡大が図れるものと考えている。

### (2) 関連出版事業

公式テキストについては、デザイン検定に相応しい内容にリニューアルしていく計画を検討する年となる。問題集と検定試験問題については、外部の専門家を入れた検証を継続し、さらに完成度の高いものを目指す。

## 2、セミナー事業 《専門的知見の充実による社会貢献の推進》

セミナー事業は、インダストリアルデザインの普及啓発と人材育成のために重要な事業と位置づけ、下記以外にも各委員会やブロックが企画・運営するセミナーを各地で行なう。

24年度は、JIDAが行なってきたセミナーと蓄積されたコンテンツを整理し、定例化できるものを抽出し体系化した構成にビルドアップすることで、一つの学校的な名称「デザインスクール」として再構築することを推進する。この「JIDAデザインスクール」によって、セミナー事業の定例化、効率化、安定化を図り、社会的認知の拡大を目指すものである。

セミナー全般においては、各事業や委員会で毎年新しいセミナーコンテンツを発案し実施をしてきた。またセミナーの会場設定、告知、集客にも大変な作業を強いられてきた。一方で過去を振り返ると壮大なコンテンツがあり、それらを繰り返して発信する必要がある内容も多くあるのだが、担当が変わって埋没されるコンテンツも多い。さらに、コンテンツを利用する側にとっては、WEBの適切な場所で閲覧できる利便性が求められる。配信する時期についても、毎年の通年行事となれば、参加者が計画しやすい状況をつくれるため、学校・企業研修等に活用されやすくなることが予想される。このように、コンテンツを再利用してセミナーを開催することで定例化し、効率化、安定化も図れると考えた結果「デザインスクール」構想に至った。

### (1) セミナー部会

23年度に新しくスタートしたAIセミナーは、24年度も同様に2回程度開催予定。AIセミナー＋先進セミナー（本年の経営セミナー続編など）も2～3回程度開催し、合計で200人程度の参加者を見込む。「デザイン事業所の経営課題を考えるセッション」については、経済産業省などの行政関係者とJIDAとの接点になるため、24年度も継続して行ない、以降も定例イベントに発展させていきたい。

### (2) デザインスクール部会

24年度は本事業立ち上げの年となる。前半6か月を準備期間とし、事業概要の確立とサイト構築を行なう。さらに、デザイン検定2級のスクールコンテンツを制作しサイトでの運用を始める。年度後半はその他講座の開発に注力し、次年度以降での本格導入を目指す。

デザイン検定2級の講座は、動画視聴サイト形式とし章別の12講座を設置する。視聴1回1000円程度とし、20人が12講座全部を視聴したとして24万円程度の収入を見込むが、初期投資がかかるため24年度は60万円程度の赤字を見込む。

### (3) インハウス部会

インハウス女性デザイナー研究会は24年度で第36期となるが、継続して行なう。企業施設訪問、主にサービスデザイン領域の研究を進めると同時に、例年通り月例会合、中間報告会と最終報告会を行なう。また、恒例となっている自動車会社の若手デザイナーを育成する目的のカーデザインセミナー、学生やインハウス若手デザイナーのためのスケッチセミナーも例年通り各1回行なう計画。

### (4) その他セミナー

昨年度中に通算回数100回を超えた素材や技術に関する小規模セミナー「スタンダード勉

強会」は、引き続き 24 年度も数回開催する予定。中国美的集団から 23 年度に依頼された 4 回連続セミナーは、24 年度に後半の 2 回を行なう。他にも恒例の中小企業にデザインの考え方や手法を普及する TASK 事業、企業の若手デザイナー向けのデザインセミナー、知財関係のセミナー、中部デザインセミナー等々、各委員会やブロック主催の各種セミナーが例年以上に多数計画している。

### 3、体験活動事業 《次世代人材の育成による国家基盤の充実》

デザイン系の学生や社会人または小学生までも対象とし、プロのデザイナーが体験的に教えたり一緒にワークショップを行なうなどの体験活動は、人材育成と交流に大きな役割を果たしている。下記以外にも、各委員会やブロックが企画する企業見学、工場見学会などが引き続き計画されている。24 年度は年間合計 10 本以上の事業を行なう。

#### (1) ISDW（国際学生デザインワークショップ）

日本、韓国、台湾のデザイン団体が ADA（アジアデザインアセンブリ）を構成し、毎年各国のデザイン学生によるワークショップを開催している。2024 年度は日本での開催年となり、JIDA が主催者として運営を行なう。開催は 8 月後半で参加者は各国から 20 名程度の学生、数名のチューターも参加し合計 70 名程度が 1 週間のワークショップを行なう。学生には海外の学生と交流できる大変貴重な体験活動となる。

#### (2) エコデザイン・ワークショップ

エコデザインをテーマとしたデザインワークショップと作品展は、プロと学生と一緒に作品創りを行なうという独自性があり、評価の高い事業となっている。21 回目となる 24 年度も通常通り 5 月から学生を募集し、7 月頃からワークショップを何回も行ないながら作品創りに繋げる。12 月に東京ビッグサイトで開催されるエコプロ 2024 展内で作品展を開催する予定。

#### (3) 子どもワークショップ

親子を対象とした子ども向けモノづくりワークショップ。24 年度も木の端材を利用し、組み立て、色を塗り、作って遊ぶことのできるワークショップを行なう。8 月に東京ミッドタウンにて二つのワークショップを開催する予定。

#### (4) 卒業制作展見学

中部ブロックではデザイン系の大学、専門学校の卒業制作展を訪問し、プロの目線で評

価・表彰する事業を長年継続している。24年度も10校近くの訪問・評価に加えて、8月に三年生前期課題の学内評価上位者を集め、講評&展示を計画。北陸ブロックでは近郊の大学数校の卒業制作見学会を行なう。

#### **(5) 学生デザインコンペ**

関西ブロックでは「JIDA 関西ブロック学生デザイン賞」と称し、全国の学生を対象にしたデザインコンペを開催する。卒業制作展見学による作品評価からコンペ形式に変えて10回目となる。8月までにテーマを設定、9月には作品募集を開始、近隣の学校には説明会やワークショップを開催しながら作品制作を促し、2月には審査、3月にはフォーラムと表彰式を行なう。

#### **(6) 見学会など**

体験活動事業の一環として、工場見学会や企業見学会などを各地で行なっている。24年度も委員会やブロック活動の中で複数計画されている。東日本では、茨城県行方市との交流事業の中で、地域活性化にデザインを絡めた体験活動イベントを昨年に続いて計画中。北陸ブロックでは地場産業の工場見学会を数回開催する予定。デザイン系の学生を対象に、企業のデザイン部門やデザインオフィスの職場見学会を提供する。学生にとってのメリットはもちろんのこと、企業側にとってもリクルーティングにつながる意味から学生の考え方を知る機会となる。

### **4、ミュージアム事業 《デザインを通じた日本文化の高度化》**

ミュージアム事業には大きく2つのセグメントがあり、デザインの優れた製品を選定、顕彰し、図録を作成・無償頒布するセレクション事業と、それら優れた製品を収蔵・管理し、展示することでデザインの啓発に繋げるミュージアム事業からなる。

セレクション事業の「JIDA デザインミュージアムセレクション」は、25年間継続している協会の代表的事業であり、24年度も変わることなく実施する。その他にも各種開催される展示会も本事業に含まれる。

#### **(1) セレクション事業：デザインミュージアムセレクション Vol.26**

26回目となるデザインミュージアムセレクション事業を継続する。例年通り50点前後の優れたデザインの製品を選定し、表彰し、2025年1月にAXISギャラリーで展覧会を実施する。会場は一般に開放し、誰でも無料で観覧できる。また、選定された製品全てを掲載する図録を制作し、会員や関係団体、世界の図書館や教育機関などに無償頒布する。

#### **(2) ミュージアム事業：常設展並びに巡回展**

セレクションで選定された製品の半数前後は企業から寄贈を受け、常設展示をデザインミュージアム inAXIS（六本木）にて年3回に分けて実施する。また、巡回展として現在候補地に挙がっている笠間市など、他の地域でも開催すべく場所の確保に努める。

ストックヤードは、現在の信州新町の廃校が老朽化のため他の地を調査中であり、年内には決めて移設の具体的計画を始める予定である。

### **(3) JSMI（メディカルショー・ジャパン&ビジネスエキスポ 徴徴）**

医療機器の総合展示会においてデザインコーナーを運営し、医療機器業界との交流・情報交換等を通じて医療機器分野におけるデザイン価値向上を目指す。一昨年と昨年は Medtec に出展したが 24 年度は JSMI に出展することとした。6 月 20 日～22 日にパシフィコ横浜で開催される。

### **(4) パッケージデザインパビリオン**

日本包装技術協会から隔年で委託を受け、TOKYO PAC 2024（東京国際包装展）内にパッケージデザインパビリオンと称するデザインコーナーの設置・運営を行なう事業。24 年度は 10 月 23 日～25 日の間に東京ビッグサイトで開催される。JIDA だけでなくパッケージデザイン協会など他団体からの参加も促し、出展料を徴収しコーナーの企画・運営を行なう。今回は医療、福祉関連エリア（新規企画）として、医療や福祉関連の包装、機器、UI /UX などのデザインをテーマにしたエリアを新設する予定。

### **(5) その他主な展示会など**

ギフトショーへの出展は、東京ギフトショーや京都ギフトショーのどちらかにほぼ毎年 1 回ずつのペースで出展をしていたが、24 年度は初めて大阪ギフトショーに出展することとなった。また、ギフトショーと同じビジネスガイド社が運営するプレミアムインセンティブショーにも 24 年度に初めて出店する運びとなった。他にも CJIDC の要請で中国蘇州市で開催予定の日中デザイン展覧会（仮称）が実施される場合は協力する予定である。

## **5、調査・研究及びその普及事業 <<専門性の深化及び客観化>>**

デザインの力を社会課題の解決に活用する研究と、さらにその成果を社会実装することを目指し、デザインの高度な価値を社会に発信する活動を行なっている。子どもや高齢者の傷害事故予防などが主なテーマとなっており、関係団体とともに社会貢献の一助となる事業と位置付ける。また、デザイナーが仕事をするために役立つ情報や、中小企業の事業を進めるための知的財産権と契約書式等の研究、民間では提供できないツールを使い易い形に開発頒布し、普及させるのもこの事業分野の一つである。下記以外でも各ブロックにおいては UX 研究会やデザインビジネス研究会、デザイナースキル研究会などの活動も行なう。

### **(1) 傷害予防のためのデータ活用に関する共同研究**

産総研と東京消防庁、NPO セイフキッズジャパンの3者で子供や高齢者の傷害事故予防の共同研究会を定例化している。具体的には、消防庁が直近の傷害事故事例を発表し、その解決策を検討、更にはそれを社会実装に結び付ける研究等を行なっている。24年度は、前年度に民間企業から委託を受けた、子供の遊具を安全視点で改良するための研究事業を引き続き行なう予定である。この成果は社会実装される可能性があるものと期待している。他にも他団体や自治体等からの委託研究も行なう。

### **(2) デザインツールの開発と頒布**

22年目になるスタンダードサンプルズの開発と頒布は、メーカーやサプライヤー、教育機関に至るまで広がり、安定した事業となっている。24年度は頒布促進に注力し、特にSNSを活用した認知拡大を進める。「1」台紙をプラスチックから紙製へのリニューアルを実施する。

### **(3) 知的財産権に関する研究**

日本弁理士会との共同研究会を開催し、知的財産権（意匠、特許、実用新案、商標）の権利関係、及び、中小企業の事業を進めるための契約書式について、傾向と対策などの研究を行なっている。これらを弁理士会と共同で各種契約書雛形等にまとめており、使用方法や注意点についてのセミナーなども行なっている。引き続きこの活動は実施して行くとともに、現在WEBサイトにて公開している。また24年度は、WEBサイトから契約書が誰でも簡単に作成できるシステムの構築を目指す。他にも、医・工・デザイン連携研究、ビジネスインフラ研究、デザインビジネスモデル研究などをカテゴリーとした活動を引き続き行なっていく計画である。

## **6、交流事業 《社会貢献及びデザイン価値の拡充発展》**

国内外の関係団体との交流を通して、インダストリアルデザインが社会ひいては人間生活そのものに役立つという共通のテーマを、より一層深化させて行く活動を行なっている。デザイン賞、展覧会、イベント、産業振興などへの協力や、行政や企業、職能団体や大学、デザイナーと学生など、様々な人たちとの交流会、情報交換会などを各地で行なう。最近、アジアばかりでなく北米の団体からなど交流の誘いが増えており、24年度は交流の広がりが楽しみな年となりそうである。

### **(1) ADA（アジアデザインアセンブリ）理事長会議**

日本(JIDA)、韓国(KAID)、台湾(CIDA)の3カ国デザイン団体でADAを構成。主要行事である国際デザイン学生ワークショップ(ISDW)と代表者会議を3カ国持ち回りで行っている。2024年度は日本開催の年となり、President MeetingのオーガナイズとともにISDW以外でのCIDA、KAIDとの新たな連携強化の可能性についても方向性を探していきたい。

## (2) 中日工業設計中心(CJIDC)との連携

中国蘇州市政府の委託を受けた相城中国工業設計中心の依頼により、JIDA公益6事業の範囲での協力関係構築の検討を行い2022年度からスタートした協力事業。日中合同で行なうデザイン展覧会、デザインコンテスト開催に向けた支援を24年度も継続して行なう。

## (3) 日本デザイン団体協議会(DOO)

デザイン7団体で構成する日本デザイン団体協議会(DOO)は、JDM(Japan Design Museum)設立に向けた活動や、知財の研究活動などを行なっている。23年度は6月に東京ミッドタウンにて初めての7団体合同イベントを行なったが、合同イベントは隔年開催とし2回目は25年度に実施する予定。24年度は9月にミッドタウンにてJDMの展示を行なう計画となった。

## (4) その他

東日本ブロックでは、茨城県行方市との交流を推進しており、22年度からワークショップやキャンプ、サイクリングなどの体験イベントを通じてデザインとのタッチポイントをつくり、子供たちのデザインへの関心を高める活動を始めた。24年度も継続して行なう計画である。

## 7、共益事業 《会員扶助及び会員支援》

### (1) DP ホットライン

フリーランスデザイナーを対象に知財の相談窓口「DPホットライン」を開設している。会員デザイナーが特許や意匠登録などの申請に関する相談や、外部との知財に関するトラブル等について、専門家に気軽に相談できる機会を設けている。24年度も引き続き開設する。

### (2) 会報誌

「ANNUAL REPORT」と称し、毎年前年度1年間の活動報告を冊子にまとめ、会員全員と関係団体等は無償配布している。24年度も、8月を目途に23年度の活動報告書を作成する予定。広報委員会が担当し、各委員会やブロックのメンバーが寄稿する。フルカラー、36ペー

ジ程度で 1,000 部前後を印刷製本する。

### **(3) その他**

東日本ブロックでは井戸端会議と称し、デザインビジネスを行なう会員同士がざっくばらんに話し合える座談会形式の場を提供、お互いのスキルアップにつなげる活動を行なっているが、24 年度も年 3~4 回計画している。更に賀詞交歓会やブロックデーと称する交流会、ブロック同士の交流など、リアルに顔を合わせる機会が減った中、貴重となった対面の会員交流の場は維持または新設なども考えていく計画である。

# 2024年度正味財産増減計算書予算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位：円)

	2023年度予算額	2024年度予算額	差 異
<b>1. 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
受取入会金	970,000	570,000	-400,000
受取入会金	970,000	570,000	-400,000
受取会費	25,596,000	26,354,000	758,000
正会員受取会費	15,072,000	15,804,000	732,000
法人団体正会員受取会費	2,300,000	2,600,000	300,000
法人団体賛助会員受取会費	7,900,000	7,500,000	-400,000
個人賛助会員受取会費	324,000	450,000	270,000
事業収益	30,953,500	39,182,100	8,228,600
書籍頒布	4,852,000	3,800,000	-1,052,000
検定登録料・問題使用料	2,464,000	3,500,000	1,036,000
展示・セミナー会費収入	9,809,500	11,707,500	1,898,000
受託事業による収入	10,778,000	14,224,600	3,446,600
その他の活動収入	3,050,000	5,950,000	2,900,000
受取補助金・寄付金等	4,866,000	7,842,000	2,976,000
補助金・中科目別記載	4,300,000	4,300,000	0
寄付金・中科目別記載	566,000	3,542,000	2,976,000
繰入金	0	0	0
補助金・中科目別記載	0	0	0
雑収益	1,000	1,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
その他収益	0	0	0
<b>経常収益計</b>	<b>62,386,500</b>	<b>73,949,100</b>	<b>11,562,600</b>
<b>(2) 経常費用</b>			
<b>事業費</b>	<b>56,209,900</b>	<b>67,785,100</b>	<b>11,575,200</b>
期首棚卸高	7,000,000	9,500,000	2,700,000
期末棚卸高	-7,000,000	-9,200,000	-2,200,000
給料・賞与・手当	10,530,000	10,650,000	120,000
雑給	3,500,000	3,665,000	165,000
退職給付費用	30,600	30,600	0
法定福利費	1,600,000	1,510,000	-90,000
旅費交通費	4,413,500	10,666,000	6,253,000
通信運搬費	951,750	1,734,000	-782,250
会議費/会場費	260,500	262,000	1,500
減価償却費	60,000	60,000	0
印刷製本費	2,460,500	2,507,000	46,500
出展料・参加費	3,368,000	2,573,000	-795,000
材料費	5,689,000	6,674,000	985,000
諸謝金	5,539,550	9,148,000	3,608,450
委託費	7,770,000	6,858,000	-912,000
什器・備品購入費	80,000	100,000	-180,000
事務用消耗品費	316,000	361,000	45,000
水道光熱費	1,700,000	1,650,000	-50,000
賃借料	5,892,500	6,660,000	767,500
団体諸会費	678,000	597,000	-81,000
懇親会費	150,000	488,000	-338,000
租税公課	700,000	750,000	50,000
雑費	520,500	541,500	21,000
<b>管理費</b>	<b>5,905,400</b>	<b>5,875,400</b>	<b>-30,000</b>
給料・賞与・手当	1,800,000	1,800,000	0
雑給	330,000	100,000	-230,000
退職給付費用	5,400	5,400	0
法定福利費	390,000	390,000	0
旅費交通費	600,000	600,000	0
通信運搬費	200,000	100,000	-100,000
会議費	0	0	0
減価償却費	20,000	20,000	0
印刷製本費	100,000	500,000	400,000
出展料・参加費	0	0	0
材料費	0	0	0
諸謝金	250,000	100,000	150,000
委託費	230,000	230,000	0
什器・備品購入費	0	0	0
事務用消耗品費	80,000	80,000	0
水道光熱費	700,000	700,000	0
賃借料	1,000,000	1,000,000	0
団体諸会費	0	0	0
懇親会費	0	0	0
租税公課	0	0	0
雑費	200,000	250,000	50,000
<b>経常費用計</b>	<b>62,115,300</b>	<b>73,660,500</b>	<b>11,545,200</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>271,200</b>	<b>288,600</b>	<b>17,400</b>
<b>2. 経常外増減の部</b>			
<b>(1) 経常外収益</b>			
経常外収益	0	0	0
<b>経常外収益計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>(2) 経常外費用</b>			
回収不能金	200,000	200,000	0
<b>経常外費用計</b>	<b>200,000</b>	<b>200,000</b>	<b>0</b>
<b>当期経常外増減額</b>	<b>-200,000</b>	<b>-200,000</b>	<b>0</b>
<b>当期正味財産増減額</b>	<b>71,200</b>	<b>88,600</b>	<b>17,400</b>
<b>正味財産期首残額</b>	<b>30,056,277</b>	<b>28,083,946</b>	<b>-1,021,106</b>
<b>正味財産期末残額</b>	<b>30,127,477</b>	<b>28,152,546</b>	<b>-1,003,706</b>

※期首残高は2022年度末の実績値としました